

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

3

2013 No.702

3 はじめの言葉

4 安い労賃を海外に求める企業に

国内の人件費の上昇を求める政府

田原文夫

何もせぬのが政治家だと言ってしまうればそれまでだが、現政権が何もせぬ前に、円相場が急落し、為替益が期待できる一部企業の株価が上がり、それが地合いとなって日本の株式相場が上がった。何もせぬ前に、国の株価とも言える円相場が下がったのである。さっそくにして、ガソリンなど輸入品物価が上がりだした。現政権は、物価指数の上昇を了解しているのだから、期待通りということかもしれないが、これを持って「デフレ脱却」だと勘違いしてはならない。同時に、国内物価の上昇が、決して日本の国際競争力を増すものでもないことも確認しておきたい。

10 情報社会を考える その30

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

思い切った財政出動をすると豪語したことが、世界中の金融市場に、ある種の火を着けたようだ。果たして吉と出るか凶と出るか。とにかく、山が動いたように見えるが、正念場はこれからである。国を担うのも、企業を担うのも、皆人材である。動き出した財政的余裕がある時こそ、この 20 年間怠ってきた人的資源の育成に精出していくことを期待したい。

13 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM 構築が必要か その 25

水田 浩

人口が減り、予算が減る縮小する社会で、生活レベルを維持するのがインフラ維持の主題となる。米国の BIM では建物の設計・施工段階から運用段階に情報を移す標準として COBie (Construction Operations Building information exchange)が作成されたが、日本では老朽化したインフラの 3 次元のレーザースキャンの結果を COBie として使える。そこで日本版 COBie の作成が不可欠となる。

1 8 連載 アーキテクチャ論 (23) 製品アーキテクチャ

山本修一郎

今回は、製品アーキテクチャについて説明する。はじめに、製品のモジュール型設計とインテグラル型設計を比較しながら製品がアーキテクチャ設計とどのように関連するかを紹介する。次に、モジュール型アーキテクチャの特質について説明する。さらに、モジュール型アーキテクチャの事例として、ファナックの NC システム、自動車分野における AUTOSAR の取り組み、コマツの KONTRAX を紹介しよう。

2 5 ユーザー視点でのサーベイのススメ 情報分析技術者の不足とそのリスク

aism

セキュリティリスクサーベイのススメをし、合わせてセキュリティ対策現場を検証している過程で、実に様々な古くて新しい問題の再発見をすることとなった。対策の責めを負う主体の再確認もさることながら、守るべき情報の定義まで、改めて見直しの必要性を痛感させられる。リスク監査部門から現業部門にいたる人事異動の壁という存在が大きいことは、前号で報告した通りである。中でも、守るべき対象のデータ／情報の範囲はどこまでかを分析／解析し、それをまとめ上げる作業を担える人材が枯渇してきていることは深刻だ。見直しの作業には、セキュリティ対策の守備範囲とすべきデータ／情報の対象の見直しも含まれるからだ。

2 9 ものの造れる日本再生に向けて その 18 第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

第 18 回 スキルズインベントリを基盤とする

人的資源管理 (HRM) システムの構築 (4)

1970 年代のオイルショック後の 1980 年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズ No1=No1 としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991 年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そしてそれは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたリストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

3 4 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 4 1 回 米大統領選は、ICT の実験場

根本忠

明

昨年の米大統領選挙は、2008 年のネット選挙から更に進歩を遂げている。新しい ICT

の実験場とってよいほどである。今後の日本の選挙での実現を期待して、ビッグデータとスマートアプリの活用について、紹介することにしたい。

3 6 続インテリジェンスへのいざない 38

サイバーテロに向けたインテリジェント基盤の確立を

今井 武

中国からのレーザー照準を受けた日本船。専守防衛の法的規制に縛られる日本でなかったら国家間戦争になっていただろう。アメリカはサイバー攻撃であっても戦闘行為とみなし、物理的軍事行動を起こすことができるとしている。日米安保条約が有事の際にどういう解釈をされ、アメリカがどういう行動をするのか。日本がサイバーテロだけでなく、レーザー照準を受けても、コメントもなかった。日本国家としてのセキュリティ体制を改めて見直すと同時に、本格的なインテリジェンス活動に入る段階になったといえそうだ。

3 9 一味違うウェブ検索

第三十二話 「事典・辞書」などの使い方シリーズ

①事典・辞書を使って「提起し難いキーワード」を見つける

ぐうのうえぶへい

前回スタートした「統計数値に注意する」シリーズと、交互に「事典・辞書などの使い方」シリーズをスタートさせることにする。最初は、辞典・辞書を利用して、なかなか思い起こせないキーワードを、簡単に見つける方法について紹介する。

4 2 新連載 バカヤロー侍 悪を斬る

すぎやまちヒロ

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなされたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆

案内／お知らせコーナー

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 229頁 石井 義興 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 EUCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁 豊島一政・木村 哲 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁 田原文夫 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁 一橋大学教授 安田 聖 監修 aism情報セキュリティ・マシナリ研究会 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM/KLEZの蔓延と最新記
第二章 aism情報セキュリティ・マシナリ研究会の発足	第十二章 メールが届かない
第三章 知られる電子署名方式の基本原則	第十三章 住みネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 復讐を駆けめくったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛事情心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2002年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ問題研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の普及と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁 高田 顯重 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日の課題	第五章 情報システム革新
第二章 経営戦略と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成長戦略
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 212頁 安田 聖 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方格子のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 288頁 加藤 洋一 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 発後モノ企業体質
■ ニュースリリースは双方向運搬	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発後のテクニック	<付> 記者とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれば、国産グローバルサーバー
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁 迫 忠幸・湯浅 誠 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム雇用の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな敵っ人
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍軍事情報と新たな構想
第五章 FJO, IBM開発	第十五章 開拓フル稼働とバグハンティング
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番最後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既済システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、敵となる三人組	第二十章 稼働その二 安定稼働と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

